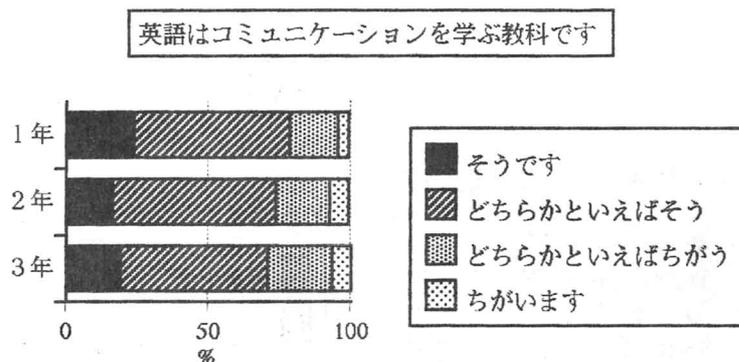


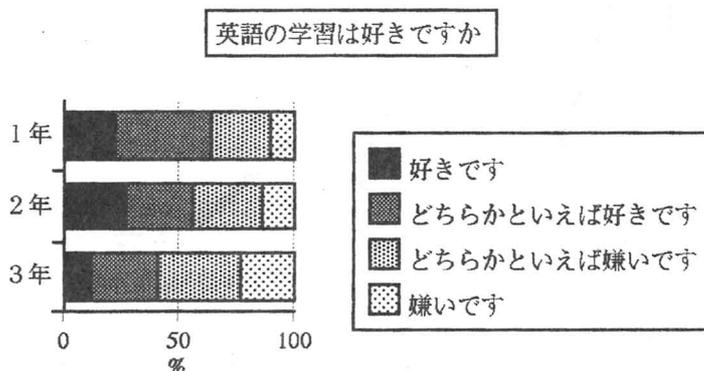
%であり、「どちらかというそうです」と答えた生徒は1年生で58%、2年生で52%、3年生で54%である。一方「どちらかというちがいます」と答えた生徒は1年生で14%、2年生で16%、3年生で15%であり、学年の傾向に大きな差は認められない。



「そうです」と答えた生徒は1年生で24%、2年生で16%、3年生で19%であり、「どちらかというそうです」と答えた生徒は1年生で54%、2年生で58%、3年生で52%である。一方「どちらかというちがいます」と答えた生徒は1年生で17%、2年生で18%、3年生で22%である。3年生になって否定的な回答が増える理由は、受験に向けて文型や文法事項に対する意識が強くなるせいだと思われる。

(2) 英語に対する好き嫌い

英語が好きだという生徒は64%から41%へと学年が上がるにしたがって減少する。また、「勉強が楽しく」、「将来役に立つ」から好きだと答えている割合が多い(35~45%)。教師や友人、ALTとのコミュニケーション活動を通して英語に親しみを感じている面もうかがえる。一方英語が嫌いだとした生徒は「授業の内容が理解できず」(49~60%)、「テストの成績が悪いため」(37~46%)であるとした答えが多い。また、各学年の1学期に好き(55→47%)嫌い(32→27%)の分岐点があり、この傾向は低学年ほど強い。3年生の33%が「楽しいと感じるときがない」と答えている。



「好きです」と答えた生徒は1年生で22%、2年生で27%、3年生で12%であり、「どちらかという好きです」と答えた生徒は1年生で42%、